ロンドンオリンピック 金メダル 村田諒太 選手インタビュー より抜粋

「運命の出会いを直感する力。それが人生を左右する」「恩師との出会いがなければ、今の自分はない」「この人について行きたい」という出会いがあったそうです。

むらた りょうたプロフィール

生年月日	1986年1月12日
年齢	26歳
性別	男
身長／体重	182cm／77kg
出生地	奈良県
種目	男子ミドル75kg級

高校時代は高校5冠達成（選抜・インターハイ・国体）2004年全日本アマチュアボクシング選手権初優勝。2005年タイ・キングスカップ準優勝。2006年ドーハアジア大会代表として出場。2008年3月東洋大学経営学部経営学科卒業。2009年、2010年全日本アマチュアボクシング選手権大会優勝。2011年世界アマチュアボクシング選手権準優勝。2011年全日本アマチュアボクシング選手権大会で優勝。2012年ロンドンオリンピック金メダル。現在、東洋大学職員／ボクシング部コーチ

★冷蔵庫の張り紙はケータイの待ち受けに！「オリンピックの2年前ぐらいから貼られました。この紙のおかげで本当に金メダルが欲しくなりました」

●大切な出会いに気づき、その運を見すごさない

「根がビビりの僕が金メダルを取れたのは、人よりもほんの少しの才能と少しの努力、そして何よりも人の何倍もの出会いがあってのことです。いつもたくさんの人に支えられています。もし僕が後輩たちに言えることがあるとしたら、そうした人との出会いに気づいてほしい、その運を見すごさずに大切にして、自分の力にしてほしいということですね」

中学1年が終わろうとする頃、髪を金色に染めることで自己アピールしていた村田選手に担任の先生が声をかけた。「おまえ、何かやりたいことはないのか？」徒党を組むことを潔しとしなかった少年は、1対1で戦う格闘競技が咄嗟（とっさ）に頭に浮かび「ボクシング」と答えた。先生の紹介で春休みに近くの高校に練習に行ったが、2週間ほどでリタイア。夏休み前に再び練習に行ったが、今度も長続きはしなかった。

「しんどいことがあるとすぐに逃げ出すという、どこにでもいるグータラでアホなケンカっ早い不良少年ですよ」

転機は、本格的にボクシングを始めた南京都高校での武元前川先生との出会いだった。村田選手は「あの先生がいなければ今の僕もいない」とまで言う。印象的なものとして覚えている武元先生の言葉がある。

『逃げるとかやめるということは、自分の才能、能力を放棄することなんだよ』

ある時、村田選手は理由あって後輩を殴りケガを負わせたことがあった。先生に呼び出された時は半殺しの目に遭うことを覚悟したというが、予想に反して先生は言葉で諭したという。

『おまえが人を殴るということは、つまりそういうことなんだよ。おまえの拳はそういう力を秘めているんだよ』

村田選手が解説を加える。

「あの時は〈殴られずに説教だけで終わった〉と安堵したけれど、あとで考えたらそんな単純なことじゃないんですよね。僕の拳には多くの可能性があること、その可能性は上に向けてこそ意味があるということを言外に教えてくれたんだってわかりました。人は自分で気づいた時はすごく成長しますよね」

心身ともに成長を遂げた村田選手は、高校の3年間でインターハイや国体など5度の全国大会優勝を成し遂げた。

東洋大学に進学後も全日本選手権優勝など数々のタイトルを獲得したが、国際大会では思ったような成績を残すことができなかった。その主因は強豪国の選手に対する必要以上の畏怖と、自身のネガティブ思考にあった。

「外国人は強いという先入観、気後れがあったんです。情けないことなんですが、北京五輪のアジア予選も僕は自分自身に期待していなかったんです。勝ちたいけれど通用しないと思っていましたから。負けることに抵抗感がなくなり、自分自身で半分は勝負をあきらめながらボクシングをしているという情けない状況でした。逃げるのは楽だし、負けるのも楽なんですよ。それ以上、試合しなくていいんだから。でも、それでは夢は叶いませんよね」

●自分が何をすべきかわかると、夢は目標に変わる

08年春から09年秋まで、村田選手は一線を退いて母校の東洋大学で学生生活課の職員として働きながら後輩たちのコーチを務めていた。そんな折に元部員が不祥事を起こし、部は活動休止となってしまった。これを機に1年半ぶりの戦線復帰を決意する。

指導者不在の中での個人練習は不安だったが、世界の一流選手の映像をチェックすることに始まり、筋トレの方法から食事のとり方まで、自分で研究を重ねた。復帰早々、全日本選手権で優勝し、10年、11年と連覇。3度目の出場となった11年の世界選手権では銀メダルを獲得し、ロンドン五輪出場を決めた。08～12年までの4年間に村田の周辺は大きく変化していた。学生から社会人へ、同僚の佳子夫人との結婚と男児の誕生、そして恩師・武元先生の死……。

そんな中、家族の存在は村田選手に大きなプラス効果をもたらした。

「結婚して生活の規律が必然的につくられたし、責任も感じています。でもカミさんや子供の存在が負担と思ったことは一度もないですね。子供が立っては寝不足になったぐらいで、プラスはいっぱいあるけれどマイナスはないんじゃないですか。何しろカミさんはああいう性格ですからね、一緒にいると影響されてポジティブな思考になっていくんですよ」

金メダルをとりました。ありがとうございます――という紙を冷蔵庫に貼り、夫をその気にさせた逸話は、すでに大勢の人が知るところである。最初は村田選手も戸惑ったという。

「2010年の初めぐらいかな？ 願い事を過去形で書いて貼るといいと、義母が本で読んだらしいです。国際大会で優勝したこともなかった時ですからね。いきなり金メダルですよ。でも不思議なもので、毎日見ていると本当に金メダルが欲しいなって思うようになったんです。特に昨年の世界選手権で銀メダルを取ってからは、おぼろげだった金メダルが具体的に見えるようになりました。これは夢じゃなくて目標なんだって。自分が何をすればいいのか見えてきたのが大きいですね」

学生から社会人になったことで、自分を客観視できるようになったともいう。

「社会に出て、ボクシングで強いということが大したことじゃないと思えるようになりました。ダウンしたらどうしようとか負けたらどうしようとか、宇宙規模で見たらそんなこと大したことじゃないんですよね。以前はビビりまくっていたけれど、ビビればビビるほど相手は嵩（かさ）にかかって殴ってくる。それってすごく損ですよね。僕はネガティブすぎて開き直れたんだと思います。最近は試合前日や当日になると〈しゃあないわ。やるしかない〉と開き直っています」

勝者と敗者は紙一重だ。村田選手が考える勝負論とは？と質問をすると村田選手は間髪入れずに「運」と答え、すぐに言葉を添えた。

「その運を引き寄せるためには練習しかないでしょうね。でも、引き寄せようと意識しすぎてもダメなんですよ。大事なことは勝つために何をすべきかと考え、そのためにどう行動するかということだと思うんです。敗者は先に結果を求めすぎる傾向がありますよね。これは以前の僕自身の姿でもあるんです」

●戦いたい気持ちはある。完璧に引退とは言えない

1億円という具体的な金額提示をしてプロ入りをすすめているジムもある。「ひとりのボクサーとしてそういう評価をしてもらえることに関しては素直に喜びたい。でも、プロ転向は考えていません。プロはプロで厳しい世界だと思います。尊敬する選手もたくさんいます。プロとアマ、どちらが上でも下でもないと思うんですよ。アマチュアスポーツの場合は、その競技を究めようという生粋のスポーツ選手が集まっているわけで、その頂点を争う場が五輪です。そこには不変の価値があると思います。その点に僕は誇りを持っています」

この後2月3日にプロ転向の意思を公式に示しましたが、どのような形であれ新撰組同志会は応援していこうと考えております。

近未来の進むべき希望も頭に描かれている。

「スポーツ科学、スポーツマネージメントなどの勉強をしたいなと。科学的にも心理学的にも、ボクシングという競技に対してもっといろいろなアプローチの仕方があるはずなんです。だから留学も視野も入れています。スポーツ科学と英語――このふたつの武器を持って将来的には指導者として勝負していきたいと考えています。目指すのは武元先生のような指導者です」

確実なことは、大好きなボクシングと今後もかかわりを持って生きていくということである。

「仮に勉強のために海外に行ったとするじゃないですか。自分で何が怖いかっていうと、絶対に新しい刺激を受けて〈俺はもっと強くなれるはずだ〉という感情が湧いてくることなんです。現役魂に火がついてしまうことが怖いんですよ。現に、僕は引退してから現役に復帰したわけですから。今朝も体が重かったので走ってしまい、走っただけでは物足りなくて公園でシャドーして、家に帰ったら腕立て伏せをやって腹筋―そんな自分が怖いんですよ」

村田選手は「多くの出会いによって支えられてきた」と分析し、周囲に感謝している。

「中学時代の先生、武元先生、大学の総監督、ヨメとの出会い――すべてに運命的なものを感じます。誰とどんなタイミングで出会うかによって人生は左右されますからね。僕は多くの大事な出会いに気づけていたという自信はあります」

2012年12月31日（月）大田区総合体育館
3大世界タイトルマッチ
内山高志選手は8回TKOで6度目の防衛に成功！
河野公平選手は3度目の挑戦で念願の世界タイトル奪取！

WBA世界スーパーフェザー級タイトルマッチ12R
内山 高志 vs ブライアン・バスケス（暫定王者）
結果:8回TKO勝ち

WBA世界スーパーフライ級タイトルマッチ12R
河野 公平 vs テーパリット・ゴーキャットジム（王者）
結果:4回KO勝ち

Watanabe BOXING GYM ワタナベボクシングジム
http://www.watanabegym.com/

2013年1月12日（土）後楽園ホール
柴田明雄選手は8RKO勝ち、二度目の防衛に成功！
小野心選手は12R判定勝ちで東洋タイトル初戴冠！

日本スーパーウェルター級タイトルマッチ10R
柴田 明雄（右） vs 細川 貴之（左）挑戦者1位
結果：8回TKO勝ち

東洋太平洋ライトフライ級王座決定戦12R
小野 心（右） vs オマリー・キムウェリ（左）同級4位
結果：2-1判定勝ち

第三回鹿児島工業高校ボクシング部OB会

2013年1月4日（金）
城山観光ホテル

来賓ご祝辞　平山九州男様

乾杯の御発声　満留直行副会長

ボクシング部創設秘話　京田薩夫様

ボクシング部へ記念品贈呈　顧問挨拶

コーチ挨拶

部員挨拶①

部員挨拶②

本博国副会長へ記念品・感謝状贈呈

本博国副会長よりオリンピック講話

山口君のエール

会長交代式

倉橋利一新会長挨拶

締めのご挨拶　野口信二副会長

S59, S60卒のみなさん

式次第

一、OB会会長のご挨拶　司会　川畑健義様
一、来賓ご祝辞　鹿児島県アマチュアボクシング連盟会長　重田光康様
一、乾杯のご発声　OB会副会長　平山九州男様
一、鹿児島工業高校ボクシング部創設秘話　満留直行様
一、記念品目録贈呈　京田薩夫様
　OB会一同よりボクシング部へ記念品贈呈
　OB会一同より本博国くんへ記念品贈呈
一、会長交代式
一、新会長挨拶　倉橋利一様
一、締めのご挨拶　OB会副会長　野口信二様
一、記念撮影

以上

OB会を発足させていただいてから約2年が経ちました。振り返ってみるとこの会のお陰で久しぶりに会えた旧友、先輩、先生方、後輩、現役生等いろんな出会いの場となりました。皆様の想いのお陰で思い切ってOB会を発足させよかったと改めておもいます。今回で私は顧問と言う立場になりますが、これからもこの会が皆様にとって交流の場となればと考えております。私の出来る事にも限りはありますが100年続くような会にと願いをこめ、皆様と共にサポートさせて頂けたらいいなと考えておりますので、これからもどうぞよろしくお願いいたします。なお現役の選手諸君におかれましては、何事にもチャレンジして反省に繋げ、日々精進しながら成長してほしいと思います。

鹿児島工業高等学校ボクシング部OB会 顧問 重田光康

★鹿児島工業高等学校 ボクシング部 OB会ホームページ → http://rokkou-boxing.com/

2012年度ボクシング年間表彰式

2012年度の年間優秀選手表彰式が1月25日、東京ドームホテルで盛大に開かれました。

【プロ部門】
■殊勲賞
WBA世界スーパーフェザー級チャンピオン
内山 高志（ワタナベジム）

■努力賞
WBA世界スーパーフライ級チャンピオン
河野 公平（ワタナベジム）

【アマチュア部門】
■最優秀選手賞
ロンドン五輪ミドル級金メダル
村田 諒太（東洋大職員）

■特別賞
本　博国（自衛隊体育学校）

南日本新聞 2013年1月25日付より

南風録

昨年のロンドン五輪ボクシングで、日本人勢48年ぶりの金メダルに貢献した代表監督の本博国さんが今月初め、母校の鹿児島工業高校を訪れ生徒たちに手ほどきをした▼選手全員にスパーリングをさせながらメモをとり、その後はメモを分析し練習プランを立てて指導していく、わずから時間ほど後には、選手たちの動きが見違えるほど変わった、と取材した記者は驚いていた▼高校生からボクシングを始めた元五輪選手だ。現役引退の後、妻子を残してウズベキスタンに留学し、コーチ修業をしている。自身、何度も国の選手と戦って、勝ったり負けたりした。貪欲に学ぶ姿勢があったからだろう▼五輪で表監督を3大会続けるトップ指導者は、理詰めで教える指導に定評がある。ロンドン五輪では決勝の後「プロとスパーリングをさせてもらうなら、いろいろな人がサポートしてくれた」と感謝の言葉も述べていた▼そんな本さんに、第51回南日本スポーツ賞の優秀指導者賞が贈られる。理論と感謝といえば、スポーツ指導の本質を見る思いである。選手だけでなく後進の指導者たちにも、本イズム が浸透していくだろう▼「全員が勝者になるわけじゃないし、勝ち負けが全てではない。ボクシングで学んだことは人生のさまざまな場面で生きてくる」。クラブ活動をめぐって気の重いニュースが続くなか、名将の言葉が胸に届く。

大蔵 美涼
（おおくら みすず）
東京都小平市立第五中学校2年生

私は今中学2年生ですが、はっきりとした夢は決まっていません。

ですが、今現在からの沢山の経験や出会いが素敵な将来に繋がると思います。沢山の事を経験する事により、新たな場面を見つける事ができ、自分のやりたい事も見つかるでしょう。そして、沢山の人と出会う事で自然に挨拶を言う事が出来たり、心配りもする事が出来るようになると思います。

特に挨拶や心配りは今から気をつけて行きたいことの1つです。『こんにちは』『ありがとうございます』など人が幸せになれるようにこのような言葉を笑顔で交わして行きたいです。

いろいろな事を経験し、大切なものはしっかりと身につけて行く事で素敵な将来へと繋がり、自分らしく過ごしていければ嬉しいです。

新撰組まごころ同志会ホームページは、「まごころ同志会」で検索してね！ URL http://www.geocities.jp/magokorodousikai/index.html